

平成 28 年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

- 総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当  
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い  
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番号	28-事前 - 1						
課題名	県下をはじめ世界の人々に貢献するグルタチオン農業の確立を目指した基礎基盤研究						
課題の概要	グルタチオン農業の実現に向けた課題について基盤研究を行うとともに、ブランド化や新技術開発を行い、環境問題の解決、収益率の向上を目的とする。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	3人	人	人	人	4.5
	有効性	4人	2人	人	人	人	4.7
	効率性・妥当性	3人	3人	人	人	人	4.5
	総合評価	5人	1人	人	人	人	4.8
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内農業の将来にとって、極めて優れた技術と思える。従って、研究所としても他の部所を巻き込んでもっと普及技術を促進すべきと思います。</li> <li>・経済的効果の展望を明確にされてはいかがでしょうか。機能性成分の増強の一方で安全性の確認も積極的に進めていただければと思います。</li> <li>・オンサイト発酵の実用化については、やや無理があるように思います。一方で基礎的データの収集はしていただくといいかと。</li> <li>・技術としては間違いなく優れていると思うので、ブランド化やその普及に向けた取り組みについてどれだけサポートが得られるかが非常に重要だと思われる。県内外の様々な企業・団体と協力して是非ブランド化を進めて欲しい。</li> <li>・グルタチオンの効果に関して、もっとしっかり科学的根拠を示したほうがいい。コストの面（施用量、回数、方法など）を検討してほしい。</li> <li>・単価面でどうか、収量との関係で。</li> </ul>						

番号	28-事前 - 2						
課題名	植物が持つ潜在的能力の利活用による新品種育成と最先端栽培技術の研究						
課題の概要	①生産性向上のための連続光栽培法の研究および適合品種の育成。②光周期的花成応答を利用した斉一的収穫のための栽培管理技術の研究。③開花促進技術を利用した優良樹種育成法の研究。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	人	4人	2人	人	人	3.7
	有効性	人	4人	2人	人	人	3.7
	効率性・妥当性	人	4人	2人	人	人	3.7
	総合評価	人	4人	2人	人	人	3.7
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的目標が何かということが、今少し理解が出来ないところがあって、評価が違っているかも知れない。</li> <li>・県の生産者、消費者のニーズ及び県民の生活向上がより良く見える研究を進めていただければと思います。生産コストも考慮された研究も進めていただければと思います。</li> <li>・植物育種におけるスピードアップとは何かを県民にわかりやすく説明できればと思います。樹木育種促進を岡山県の樹種に応用できる可能性追求を。</li> <li>・専門外で研究について十分理解できず申し訳ないが、研究として価値は高いと思うので、誰のためになるのかという点がもう少しわかりやすくなるとなお良いと思う</li> <li>・ターゲットとなるトマトの品種を定めて、強光耐性遺伝子の早期同定と導入をしてほしい。課題1（連続光照射）と課題2（光周性）の統一性を図ったほうがいい。</li> <li>・電気代等コストと収量との関係をもっと極めてもらいたい。</li> </ul>						

番 号	28-事前 - 3						
課題名	県産農作物の効率的育種技術の開発と新品種育成						
課題の概要	競争力の高い高品質な白桃や多様な新形質をもつ次世代モモ品種の開発を可能にする分子育種支援型モモ育種システムの開発を目指す。また、青枯病抵抗遺伝子を集積したトマト新品種の育種を可能にするエフェクター支援型育種システムを確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	4人	2人	人	人	人	4.7
	有効性	4人	2人	人	人	人	4.7
	効率性・妥当性	2人	4人	人	人	人	4.3
	総合評価	4人	2人	人	人	人	4.7
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桃は岡山の特産品であり、もっとこの研究には研究費を投入しても取り組むべきである。（効率を論ずる以上の問題である。）</li> <li>・生産力向上も考慮した研究も進めていただければと思います。西尾白桃の褐変抑制のメカニズム解明を進めて下さい。</li> <li>・岡山オリジナルをこの育種法でぜひ達成を。トマトに抵抗性が付与できたとして、おいしさとかね合いをうまく伝えていってください。</li> <li>・白桃は岡山の特産でもあるので、是非素晴らしい育種を作成してほしい。青枯病についても岡山のみならず大きな問題があるようなので、農家のニーズはかなり大きいと思われる。いずれについても積極的に進めてほしい。</li> <li>・桃の品質や青枯病抵抗性の改善は岡山県らしい課題で、早くいい素材を見つけて取り組んでほしい。</li> <li>・時間がかかりすぎるのがネック。前後に収穫できる桃の研究が望まれる（期間が長く）</li> </ul>						

番 号	28-事前 - 4						
課題名	革新的植物活力向上技術の開発研究						
課題の概要	植物自身が持つ防御システムを活性化して病害を防除する環境低負荷型の病害防除法として、植物の活力を高める資材であるバイオスティミュラントの開発及び最新のゲノムツールを利用した病害抵抗性作物の育種を試みる。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	3人	人	人	人	4.5
	有効性	3人	2人	1人	人	人	4.3
	効率性・妥当性	3人	2人	1人	人	人	4.3
	総合評価	3人	3人	人	人	人	4.5
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の視点が極めて優れていると思います。有機栽培は、市場ニーズは大いにあると考えられます。</li> <li>・県内企業と共同開発を進めて、岡山県発のシーズとして進めていただければと思います。</li> <li>・実用化+サイエンスとしてのバックグラウンドデータ蓄積のバランスをうまく進めてください。</li> <li>・非可食性植物材料を活用するという点で、この研究が実現可能であればインパクトは大きいと思われる。是非実用化にあたって県内企業とコラボレーションができるようサポートが行われることを望む。</li> <li>・知財をしっかりとおさえること。効果の科学的根拠を示す必要がある。</li> </ul>						

番 号	28-事前 - 5						
課題名	農産物の機能性探索研究						
課題の概要	①県産農産物（特に黄ニラ・オーロラブラック）の機能性研究。②快眠を導く機能性米飯の研究開発。③農林水産物加工用酵素の研究開発。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
	有効性	2 人	3 人	1 人	人	人	4. 2
	効率性・妥当性	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
	総合評価	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県特産品の機能性探求は6次産業化に通ずると同時に生産者育成に多いに貢献できると考えられる。</li> <li>・特に睡眠に関する研究で、県内ニーズに対応した方向で進めていただければと思います。酵素機能に関する研究展開も期待しています。</li> <li>・微生物（酵素）に特化したことを忘れずに研究を進めて下さい。</li> <li>・快眠を導く機能性米飯が完成すれば面白いとは思いますが「ホルモンに作用するお米」が消費者にとってどの程度受け入れられそうか事前に調査は必要だと思われる。お米として製品にすべきかあるいはサプリメントの方が良いかと言った点は、製品の成功という点では重要なポイントだと考える。</li> <li>・歯周病菌に対する黄ニラの効果に関して物質の同定など行う必要がある。</li> <li>・岡山県産作物を使用しているところが非常によい。</li> </ul>						